

パオちゃん's EYE

2017年8月1日 発行 No.5

アンモナイト

アンモナイトはよく知られている古生物で、その殻が化石としてよく見つかります。今のオウムガイに近い軟体動物のグループで、4億年前（古生代）から6500万年前（中生代末）まで、世界の広い海域に生息していました。多くは平たく巻いた巻貝のような殻を持ちますが、その内側には多くの仕切りがあり、小部屋に分かれています。生きていた時はその中のガスの浮力で海中を動きまわっていました。今のオウムガイのように多くの足があったと考えられています。殻の大きさは1cmから1mを超えるようなものまでさまざま、古生代のものは小さい種類が多く、中生代には大型の種類が現れるようになり、また、らせん状などの変わった形の殻を持つ種類も出現しました。

今までに知られている中で世界最大のアンモナイトはパラプゾシアというもので、ドイツで産したもので、殻の直径は約2mに達します。



世界最大のアンモナイト（ドイツ産。レプリカ。直径約2m）

国内でアンモナイトが多く産するのは北海道中央部に南北に細長く分布しているエゾ層群と呼ばれる中生代白亜紀（1億4300万年～6500万年前）の地層や、山口県下関市の豊浦層群と呼ばれる中生代ジュラ紀（2億1200万年～1億4300万年前）の地層などです。

岡山県内ではアンモナイトはあまり多く産しませんが、芳井町日南の古生代石炭紀の石灰岩中から1～2cm程度の小さなものが希に産します。

武智泰史(地学担当)

パオちゃんズアイに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp

博物館ホームページには
いろいろな情報がいっぱい♪
「倉敷市立自然史博物館」で
検索してみよう！ パオより

